

平成26年度

第8回えひめ特別支援教育研究大会のご案内
(第2次案内)

- 1 目的 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応える特別支援教育の充実・発展を目指し、その在り方を追究する。
- 2 主催 愛媛県教育研究協議会
愛媛大学教育学部附属特別支援学校
- 3 日時 平成26年8月4日(月) 9:30~16:00
- 4 会場 午前(講演会場) 愛媛大学南加記念ホール
午後(分科会会場) 愛媛大学 大学会館
〒790-8577 松山市文京町3番 TEL 089-927-9000(代)
- 5 後援 愛媛県教育委員会
愛媛県市町教育委員会連合会
- 6 参加者 小・中学校教職員 特別支援学校教職員
保育園・幼稚園教職員 特別支援教育関係者
施設・作業所関係職員 その他参加希望者

7 日程

9:30 10:00 10:20 12:20 13:30 15:50 16:00

受付	開会 行事	講演	昼食	【障害種別分科会】 分科会1: 知的障害教育 分科会2: 病弱・虚弱及び肢体不自由教育 分科会3: 難聴及び弱視教育 分科会4: 言語及び発達障害教育 分科会5: 自閉症・情緒障害教育	閉会 行事
----	----------	----	----	--	----------

8 講演

- 講師 松久 真実 先生
プール学院大学教育学部教育学科准教授 特別支援教育士スーパーバイザー
- 演題 「ユニバーサルデザインの視点からの学級づくり・授業づくり」

9 分科会

【知的障害教育部会】

テーマ「児童生徒の教育的ニーズに応じた支援の在り方」

13:30 14:00 14:30 14:50 15:50

発表	質疑応答 研究協議	休憩	情報交換
----	--------------	----	------

提案：西予市立狩江小学校 教諭 田中 百合 先生
 提案：八幡浜市立保内中学校 教諭 山村 正美 先生
 司会：松山市立南第二中学校 教諭 佐伯 由美 先生
 記録：今治市立富田小学校 教諭 長井 直也 先生

【病弱・身体虚弱及び肢体不自由教育部会】

テーマ「病弱・身体虚弱及び肢体不自由児への指導・支援の在り方」

13:30 14:00 14:30 14:50 15:20 15:50

実践発表	質疑応答 研究協議	休憩	情報交換	指導 助言
------	--------------	----	------	----------

指導助言：愛媛県立しげのぶ特別支援学校 教諭 仙波 尚子 先生
 記録：宇和島市立城南中学校 教諭 中尾 若子 先生
 司会：松山市立南中学校 教諭 寺川 幸夷 先生
 記録：松山市立堀江小学校 教諭 続木 由美 先生

【難聴及び弱視教育部会】

テーマ「一人一人に応じた指導の工夫」

13:30 14:30 14:40 15:50

講 話	休 憩	質 疑 応 答 情 報 交 換
-----	-----	--------------------

講師：愛媛県総合教育センター 特別支援教育室長 稲荷 邦仁 先生
 司会：松山市立味酒小学校 教諭 楠岡 正輝 先生
 記録：松山市立桑原小学校 教諭 青木美知子 先生

【言語及び発達障害教育部会】

テーマ「子どもの特性に応じた支援・連携の在り方」

13:30 14:30 14:50 15:50

実践発表 1	質疑応答 協議	休 憩	実践発表 2	質疑応答 協議
--------	------------	-----	--------	------------

記録：松山市児童発達支援センターひまわり園 児童発達支援管理責任者 和田真由子 先生
 記録：東温市立川内中学校 教諭 奥村佐知夫 先生
 司会：松山市立久米小学校 教諭 岡村 健一 先生
 記録：松山市立北条小学校 教諭 岡本 明香 先生

【自閉症・情緒障害教育部会】

テーマ「児童生徒一人一人の特性に応じた指導の工夫」

13:30 14:30 14:50 15:50

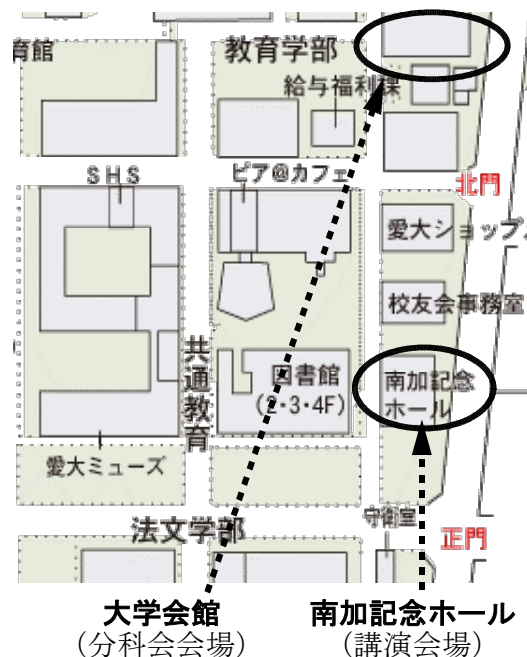
実践発表 1	研究協議	休 憩	実践発表 2	研究協議
--------	------	-----	--------	------

記録：今治市立上浦小学校 教諭 渡邊 優子 先生
 記録：西条市立丹原東中学校 教諭 佐伯 武 先生
 司会：松山市立雄郡小学校 教諭 今川 祐次 先生
 記録：愛媛大学教育学部附属特別支援学校 教諭 菊池めぐみ 先生

- 10 費用 愛教研会員は無料
 会員外の参加者は資料代500円

- 11 参加申込み
 別紙申込書にて、7月18日（金）までにお申し込みください。（FAX、郵送 いずれも可）
 ※ 講演会場の収容人数の関係で、250名を定員（先着順）といたします。定員を超えた場合は、申込書を受け付けた時点でご連絡させていただきます。ご了承ください。

- 12 その他
- 当日、学生食堂（大学会館1F）が開いていますので、必要な方はご利用ください。
 - 分科会の会場は、大学会館3階301・302・303・304・305を使用します。詳細につきましては、大会当日、連絡・案内いたします。
 - 愛媛大学構内への駐車はできません。周辺の有料駐車場をご利用いただくか、少し離れていますが、愛媛大学教育学部附属特別支援学校内臨時駐車場をご利用ください（徒歩15分）。利用希望者は、申込書所定の箇所に○印を付けてください。



【知的障害教育部会】

テーマ 「児童の教育的ニーズに応じた支援のあり方」

司会 松山市立南第二中学校 教諭 佐伯 由美

記録 今治市立富田小学校 教諭 長井 直也

I 提案1 ～自信をもって活動・表現ができるようになるために～

西予市立狩江小学校 教諭 田中 百合

1 学校、特別支援学級、児童の実態

(1) 全校児童32名（今年度で閉校）である。支援学級児童6年男子1名で、交流学級は5・6年複式学級（5年5名、6年5名）である。

(2) 本児は明るく素直である。人に対して優しい。根気強い。一方、獲得語彙が少なく質問に対する返答に困ることが多い。話し言葉では助詞が抜けることが多い。初めて行うことに対して抵抗をもちやすい。

2 学習の工夫（言葉集めの学習から作文につなげる学習へ）

(1) 語彙を増やす工夫

絵カード（くもん出版）を利用して物の名前に加え、部分の名前の学習をした。季節ごとに行く地域探検や行事を、写真を利用してまとめ、言葉の確認を行った。

(2) 助詞の指導と構文指導

ア 文章中の助詞に赤で丸を付けて助詞を意識させ、音読の練習をした。また、PCで言語訓練支援ソフト「ことばのくんれん」を活用し、繰り返し学習した。

イ 2語文（主語＋述語）、3語文（主語＋修飾語＋述語）からなる文の助詞の部分を虫食い文として黒板に提示し、助詞カードを挿入する練習をした。また、同様の問題をプリントの穴埋め問題にし、繰り返し練習した。また、PCではフリーソフト（Leeの特別支援教育<http://www.geocities.jp/leeobaatian/>）を活用した。

ウ 複数の教師によるロールプレイや「おおきなかぶ」の絵本を活用して、「だれがだれを…した」を確認し、状況を文で表す活動を取り入れた。

エ 本児が日常生活で表現した不適切な構文の記述を取り上げ、黒板に視覚的に提示し、不適切箇所を段階的に訂正させる学習を継続した。正しい文を何度も読んで覚えたり、見ないで書いたりする練習をした。

(3) 作文指導

体験後のまとめを、5文をパターン化し1文ずつ短冊カードに書くようにした。

第1文（「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」）

第2文（はじめに～した） 第3文（次に～した）

第4文（最後に～した） 第5文（～だと思った）

文章化の際、写真をもとに知らないものには付箋を付け調べた。

3 表現する場の設定

(1) 職員室等への出入の練習をしたり、教職員に自身の作品を紹介したりした。

(2) ヒントカードを利用して、交流学級で朝の会、帰りの会の司会をした。大きな声を出す練習を行い、集会の司会や発表をしっかりと行った。

4 行事への参加と今後の課題

自然の家や起震車体験、内科検診、水泳記録会などにおいて、事前に疑似体験を行い、見通しをもって参加した。今後は進学予定先の中学校と連携を図るとともに、本児に進学体験を行わせ、不安なく中学校に入学させたい。

II 提案2 「児童生徒の教育的ニーズに応じた支援のあり方」

八幡浜市立保内中学校 教諭 山村 正美

1 学校、特別支援学級、生徒の実態

- (1) 学級数8（うち、知的障害特別支援学級1学級4名、自閉症・情緒障害特別支援学級1学級3名含む）で、生徒数199名の中規模校である。
- (2) 知的障害特別支援学級の4名は1年女子A子、2年生男子B男、3年生男子C男、3年生女子D子である。自閉症・情緒障害特別支援学級の3名は全員男子で、1年生のE男、F男、G男である。

2 研究の実際

- (1) 多くの人の関わりで特別支援学級生徒を育てていく体制を確立するため、全教職員が共通理解を図った。

- (2) 学級歌制作と発表会に向けての取組

各学級での学級歌制作と発表会が伝統となっていた。しかし、以前は特別支援学級は制作、発表は行っていなかった。昨年度、教師と生徒の熱い思いから、特別支援学級2学級で1つの学級歌制作と発表に取り組んだ。

ア 歌詞作り 特別支援学級7名生徒全員が気に入っている言葉を出し合い、特別支援学級担任と国語担当教師がこれらの言葉を取り入れた歌詞を完成させた。

イ 曲作り 特別支援学級担任が希望する曲の雰囲気を取り入れて、音楽担当教師が合唱曲「ひまわり」を完成させた。

ウ 文化祭での発表に向けて

7名での合唱では人数が少ないことと通常の学級の生徒との相互理解を深めるために、「ひまわり」を一緒に歌ってくれる生徒を通常学級から募集した。練習初日に20名が集まった。昼休みに練習を重ねるごとに参加者の思いが周りにも伝わり、最終日は80名にもなった。B男が伴奏を担当した。本番は大盛会であった。

- (3) 学級歌を通しての啓発

ア 八幡浜市の小中合同発表会で発表することとし、生徒に呼びかけたところ全校生徒の約半数の100名で本番に臨むことができた。

イ 学校だよりやホームページでも歌詞の一部「みんなの笑顔で 僕も笑顔になれる みんなの優しさが ぼくらの力になる」を紹介した。

3 成果と課題

- (1) 多くの支援が得られるにつれて特別支援コーディネーターへの相談件数が増えてきた。生徒同士の絆も強まり、保護者、地域に対してインクルーシブ教育に向けての啓発につなげることができた。
- (2) コーディネーターとしてさらに効果的、具体的支援の助言ができるよう自ら学び続け、関係諸機関との連携を深める。取組の継続とマンネリ化への対策が課題である。



III 情報交換（有用な教材の紹介）

- 算数…フリーソフト F9Ⅱ（自作プリントができる。）
- 国語…葛西ことばのテーブルのシリーズ
- その他一般…仮説社 月刊誌「たのしい授業」の報告



【病弱・身体虚弱及び肢体不自由教育部会】

テーマ「病弱・身体虚弱及び肢体不自由児への指導・支援の在り方」

指導助言：愛媛県立しげのぶ特別支援学校 教諭 仙波 尚子

実践発表：宇和島市立城南中学校 教諭 中尾 若子

1 提案内容

(1) 指導の実際

ア 脳性麻痺で肢体不自由学級に在籍している中学校3年生のA子の実態について

イ 歩行練習の取組

○ A子は、愛媛こども療育センターに月1回、旭川荘南愛媛療育センターに週1回通院してリハビリを行っている。保護者の同意を得て、担当の先生からケアの仕方や注意点などを聞き、学校でも歩行の練習を行った。

ウ ソフトバレーボールの実践

○ 楽しい活動を通して、体力の向上を図るとともに体の緊張を緩和させることを目標に1年生の時から継続して取り組んでいる。初めは、A子も楽しくゲームに参加できるように特別なルールを考えたが、活動に慣れた頃に少しずつ正式なルールに近い状態にした。生徒も一緒に、みんなが楽しくできるルールを考えた。

(2) 成果と課題

○ 歩行練習については、実際に行う生活支援員とも情報を共有し、試行錯誤しながら行った。しかし、話を聞いただけで上手にできるものではなく、適切にできているのか、不安になるときもあった。しかし、継続して行うことにより、学習のリズムも整い、A子の意識付けにもなったのではないかと思う。

○ ソフトバレーボールでは、普段教師と一対一で関わることが多いA子が集団で活動する機会となり、他の生徒にもよい刺激になった。始めは、難しい動作もあったが、生徒や教師と協力することにより、楽しく活動することができた。A子の日記には、「今日は、後ろからきたボールをそのまま相手のコートに入れることができました。うれしかったです。今日は調子がよかったです。バレーボールはまたありますか？」と上手にできたことを喜び、次回を期待する文章が書かれてあった。

2 研究協議及び情報交換

Q1 保護者は、教科学習を強く求めているが、教師としては体のことや自立に向けての活動が大切だと思っている。この考えの違いをどう埋めたらいいか。

A1 子どもができるようになったことを保護者に見てもらい、理解を図った。できることが増えると保護者も喜び、話し合っ一緒に考えていこうという態度を見せるようになった。

A2 子どもが何を望んでいるのかを聞き、それを踏まえて親、子ども、教師の三者で今後何が必要なのかを考えた。

Q 2 自立活動をする場合、押したり伸ばしたりするときどこまで力を入れたらいいのかが分からない。

A 1 指示が通る子については、自分ができる範囲のことをやらせて、こちらが補助をする程度でよい。その際には、ゆっくり丁寧に、少しだけ力を加える程度でよい。また、体のつながりを教え、動かしたい部分を動かすためには、どの部分を動かすとよいかを教えると、子どもが意識して体を動かすことができる。

A 2 自立活動の時間だけで行うことが難しい。日常生活でも取り入れていくことが大切である。座った姿勢のときに、力を入れるところを伝えて意識をさせたり、体の使い方を教えたり、食器や補助具を使ったりして自分でできることはさせるようにする。初めは、細かい動きまで説明して、体の動き方を意識させるようにする。

Q 3 国語や算数などの学習がなかなか進まないが、どのようにすればよいか。

A 1 算数は操作活動が重要である。手を使うことで覚えていくということもある。手を使いながら、遊び感覚で繰り返し学習することも大切である。

Q 4 トイレトレーニングの進め方が分からない。

A 1 なぜできないのか、理由を考えてみることも必要である。感覚がなく、出たことがうまく伝わらない場合もある。定時排泄で練習を行い、成功体験を増やしてほしい。また、トイレでできたら気持ちいいとか、トイレでできてえらかったねという快の感覚を伝えてほしい。

3 指導助言

本人が質のいい生活ができるような、その状態を続けられるような支援を心掛けてほしい。また、よい支援を長く続けるためにも支援する人が支援しやすい、体の負担にならないような支援の仕方を工夫したい。

子どもの将来像を見据えて、子ども自身に体の使い方を教えてほしい。そのためには、体のどの部分をどのように動かせばよいかを教えることも大切である。車椅子を持って自分で立つ、トイレに行くときに自分で立つ、立ったままで待てるということはとても大切な動作である。少しでも自分ができることを増やしていけるように、いつまでもその動作ができるように、日常生活での関わりを大切にしてほしい。そのことが子どもの自信ともなり、生きる力にもつながると思う。

【難聴並びに弱視教育部会】

「一人一人に応じた指導の工夫（聴覚障害児への支援）」

愛媛県総合教育センター特別支援教育室長 稲荷邦彦

1 講話

- (1) 聴覚障害児の聞こえについて
 - ・ 聴覚障害児の聞こえのシミュレーション
- (2) 補聴器について
 - ・ 補聴器（音を大きくする機器）、FM補聴器
- (3) 人工内耳について
 - ・ 仕組み、人工内耳の聞こえのシミュレーション
- (4) 聴覚障害児の苦手さ
- (5) 話すときの注意事項
- (6) 学校生活でできる支援
- (7) 言語指導の基礎
 - ・ ことばはビルの最上階、ことばの冰山
 - ・ 分かる言葉をふやすための留意点 口声模倣 拡充模倣 プロンプト表出
 - ・ 音韻表象を確立
 - ・ 抽象語の指導 語句指導 短文作りによる指導 例文を使った指導
 - ・ 心情を表す言葉 気持ちや感情の表現 多義語を書き並べたプリントでの指導
 - ・ 5W1Hに対する答え方の練習 絵日記指導

2 質疑・応答・感想など

- (1) 片耳が聞こえにくい場合の対応について
 - 一度に2,3人で話す場合、聞き取りにくいので、合図をしてから話す。座る場所に配慮。
- (2) 音楽の指導時に配慮すること
 - 音程の指導は、周りの音が雑音になるので、一斉指導より個別指導がよい。音符が見える形にしたり、肩をたたいてリズムを感じたりするようにする。
- (3) 覚えるのが苦手な子
 - 耳からだけでなく、家庭や学校で視覚に訴える表やポスターを貼り、視覚情報を補う。
- (4) ノートティク
 - 児童が、後から学習を振り返るのに有効である。低学年の場合は、文字を読むスピードが遅いので、実態に合わせて方法を考える。
- (5) 進路について
 - 高校に進学する場合は、事前に中学校から高校へ相談をし、連絡を密にしておくこと。
- (6) 支援について
 - 手伝う場合は、本人の実態を把握し、できることを見極め、待つこと。
- (7) 人工内耳
 - 協力学級に行った場合は、できるだけ聴力を活用するよう工夫する。

(8) 軽度難聴児の支援

一斉授業では聞き取れないことがあるので、座席の位置に配慮する。いつも教師が声掛けをすることも大切。

【言語及び発達障害教育部会】 テーマ「子どもの特性に応じた支援・連携の在り方」
＜実践発表1＞ 松山市立児童発達支援センター ひまわり園

児童発達支援管理責任者 和田 真由子

＜提案内容＞

1 乳幼児期の療育機関の紹介

児童発達支援センター： あゆみ学園・くるみ園・松山市児童発達支援センター
ひまわり園

児童発達支援事業： 松山市畑寺児童発達支援事業所・親子通園くれよん・
どんぐり・ひだまりクラブ等

2 ひまわり園の組織、方針について

児童、保護者双方への支援を行う。

3 「個別の支援計画」の作成について

- ・ ひまわり園では「個別の支援計画」を個々の児童に作成することで、チームとしての支援を行うことを目指している。
- ・ 「個別の支援計画」の作成に当たっては、保護者に家庭状況についてのアンケートを行い、ニーズや願い等の聞き取りを行った上で、作成会議にて支援目標と支援内容について確認、決定を行う。
- ・ 具体的な目標を設定し、担当者や関係者をはっきりさせ、全体として支援していく形態をつくろうと努めている。
- ・ 「リレーファイル」（東温市：「きらり」松山市：「きずな」）を「個別の支援計画」を立てる際や引き継ぎの際に活用している。

4 就学に際しての連携

年長時： 園と学校が就学前に積極的に関わることで、保護者、児童の不安を軽減することができた。

入学後： 園と学校が児童の入学後も連絡を取り合ったり、授業参観をしたりすることで、児童のよりよい発達、成長につなげることができた。

＜研究協議＞

- 「個別の支援計画」があれば、児童の育ちや今まで受けてきた支援等が分かるようになっているので、小・中学校での支援につながる。
- 療育機関同士の交流や研修会等はあるのか？
→ 他の療育機関同士のつながりは、今のところはほとんどない。
- 市町村によって違いはあるが、切れ目ない子育て支援ができるよう、福祉課や発達支援課などで「個別の支援計画」を作成している市町村や「リレーファイル」を配布しているところがある。
- 保護者によっては「個別の支援計画」や「リレーファイル」を学校や支援機関に持ってこられない方もおられ、十分な活用がされていない事例もある。
- 文書での引き継ぎはできても、園や学校に出向いての話し合いができるまでには至っていないため、そういう機会を設けられるように考えていきたい。
- 保護者が「リレーファイル」のよさを知り、保護者自身が自分の子どものことについて説明したり活用したりできるようになってほしい。

<実践発表2> 東温市立川内中学校 教諭 奥村佐知夫（通級指導教室担当）

<提案内容>通級指導教室における指導の連携—新設1年目の取組—

- 1 通級指導教室とは何か、担当者として何ができるか。
- 2 職員、生徒、保護者への啓発
 - ・ 職員 → 職員会の時に説明
 - ・ 生徒 → 集会後の時間を使って
 - ・ 保護者 → 全保護者向けに文書を配布
- 3 通級における指導の内容について
 - 生徒のしたいこと、学級担任や保護者からの情報を聞き取りながら学習内容を決定。学期ごとに計画を立てて取り組む。ゲーム感覚で数学に楽しく取り組ませたり、データをとって生徒の伸びを視覚化したり、高校受験に向けて作文、面接等の指導を行ったりした。
- 4 学級担任、保護者との連携ツールとして「あっとファイル」を活用。
- 5 個々の生徒への対応・手立てについて
 - ・ 不登校傾向のある生徒への学習支援
 - ・ いじめへの対応
- ☆ 「見届ける」「見極める」「連絡する」「連携する」の4つのポイントに沿って対応することを心掛けている。
- 6 通常学級との連携
 - ・ ICTの活用
 - ・ 見通しをもった授業づくり
 - ・ 学習環境づくり
- ☆ 広島県己斐上中学校の取組を参考に、学校全体で全ての生徒にとって分かりやすい授業づくりに取り組んでいる。
- 7 成果と今後の課題
 - 全教職員で共通理解が図れた。学校生活の改善が見られた生徒がいる。生徒が希望する卒業後の進路に進むことができた。
 - 「ソーシャルスキル」への対応。通常の学級とのコミュニケーションの取り方。研修の必要性。

<研究協議>

- 高校につなぐための中学校の取組
 - 合格発表後、高校の担当者と情報交換を行っている学校や入試前に保護者の希望により引き継ぎをした学校がある。全体的には、保護者の希望がない限りは通級指導教室に通っていたことは高校側に知らせない学校が多かった。
- 校内体制を整え、生徒のための協力体制を組むことの大切さ
 - 川内中学校では、養護教諭が中心となって、支援員・スクールカウンセラーの活用を行う他、全教職員でハートルームに来る生徒に対応している。また通級指導教室で個別の支援を行うだけでなく、保健室登校の生徒へも丁寧に関わっている。ケース会議・研修については随時行い、共通理解を図っている。

【自閉症・情緒障害教育部会】

テーマ「児童生徒一人一人の特性に応じた指導の工夫」

1 提案

〈実践発表1〉・今治市立上浦小学校 教諭 渡邊 優子

〈実践発表2〉・西条市立丹原東中学校 教諭 佐伯 武

2 内容

〈実践発表1〉 ～A児の実践を通して～

(1) A児の実態について

- ・ 入学時、身辺自立が十分でなく、こだわりが強かった。
- ・ 人への関心はあるが、知っている友達がいないことへの不安が強かった。
- ・ 体調面で配慮が必要であった。

(2) A児の特性に応じた指導の実践

ア 基本的な生活習慣の定着

- ・ 排せつの失敗があったため、着替えスペースを設置した。(1年生)
- ・ 音と褒め言葉が出る玩具を使用し、トイレへ行くと鳴らすことにより、意欲化を図った。(2年生)
- ・ トイレで排せつできた時にシールを貼り、意欲化を図った。(3年生)
- ・ 家庭では何でも食べるにもかかわらず、学校給食は一口も食べられない状態だったが、自分が栽培で育てたものを使って調理すると食べることができた。
- ・ 衣服の着脱では、カードや花丸、タイマーで意欲化を図った。

イ 社会性の伸張(集団行動、集団学習)

- ・ スケジュールを確認し、時計カードにより時間も確認するようになった。
- ・ 集団参加への不安が強いため、日々の生活の中でタイマーやカードを利用したり、自立活動で「人とかかわり方」を学習したりして心の安定を図りながら、学校行事や教科交流、特別支援学級間での交流活動に参加した。

ウ 基礎・基本の定着(学習面)

- ・ 国語、算数を中心にカードや写真を利用しながら繰り返し、定着を図った。

(3) 研究協議

Q1 集団の中に居続けるとしんどくなり、暴言を吐いたり、たたいたりする行動が見られる。気持ちを表すカードも用意しているが、うまく使えていない。どのような支援をすればよいか悩んでいる。

A1 例えば、朝会への参加については、スケジュールを立てる段階で「無理しなくてもいいよ。」と教師が言葉掛けするなど、実施日よりかなり前から活動予告をしておく必要があるかもしれない。

Q2 本児は「みんなといたい。」と言うようになった。しかし、時間が経つとしんどくなり、不適切な行動になる。体も大きくなってきて、心配である。

A2 朝会への参加方法で、窓の外から見ることから始めて、①「足の裏、おしりをつけて座る」②「話を聞く」というルールを伝え、教室で練習すると座れた例がある。他にも、体育館の後ろでいすに座って参加するなど、本児の気持ち

- を大切にしながら参加方法をいくつか提示し、試していくとよいのではないか。
- Q3 細かな実践で、大変分かりやすかった。スケジュールが分からず不安が強い子どもにカードを使って参加できるようになったが、カードを離していくタイミングで悩んだことがあった。A児はどうか。
- A3 A児は、幼稚園でかなりカードを使って過ごしていた。それに比べると減ってきている。遠足等の特別な行事にはカードが必要だが、日々は計画帳を書くことで理解できている。

〈実践発表2〉 iPadを利用した学習(生徒3名が在籍)

- (1) 学び合い学習について
- ・ 特別支援学級における学び合い学習だけでなく、生徒の実態に応じて教科交流を実施し、協力学級での学び合い学習にも参加している。分からないことを伝えにくい生徒については、自学級で生徒の気持ちを担任が聞き、寄り添う支援をしている。
- (2) 無料アプリを使った学習
- ・ 「遊んで学べる日本地図パズル」では、都道府県名の学習ができ、難易度も自分で選ぶことができるため、難しい問題にチャレンジする生徒の姿が見られた。
 - ・ 「支払い技術検定」では、実際の買い物場面を想定し、お金の計算が暗算できるように練習でき、意欲をもって取り組めた。
 - ・ 「筆順辞典」では、楽しみながら自主的に筆順練習に取り組むことができた。
- (3) 研究協議
- Q1 自学級における学び合い学習の様子について教えてほしい。
- A1 2年生が作った問題を3年生が解き、3年生が作った問題を教師が解くという学び合いを実施した。
- Q2 授業において、iPadの活用の仕方はどうのようであるか。
- A2 教師が意図して取り入れることもあれば、生徒の希望で使うこともある。休み時間に遊びに来た協力学級の友達に対し、特別支援学級の生徒が自信をもってアプリを紹介する場面も見られた。
- Q3 本校は、学校に2台しかタブレットがないのが現状である。タブレットは、アプリをすぐダウンロードして使うことができるのか。
- A3 教師用パソコンとiPadをつなぎ、必要なアプリをインストールしていく。それでiPadでの使用が可能になる。タブレットとインターネットがつながっていれば、直接ダウンロードできるが、メールアドレスの設定は必要である。
- Q4 ICTをコミュニケーションツールとして、どのように活用していけばよいか、あれば紹介してほしい。
- A4 iPadをホワイトボードとして使用したり、メールのやりとりをしたりすることは可能である。カメラとして使用し、「写真を撮らせてください。」と言うのもコミュニケーションの一つである。子どもたちが描いた絵をまとめ、電子紙芝居などの一つの作品にまとめることもできる。その場合、絵本をめくるように見える表示の仕方もできる。